

地域に信頼され 必要とされる金庫をめざします。

当金庫の地域経済活性化への取組みについて

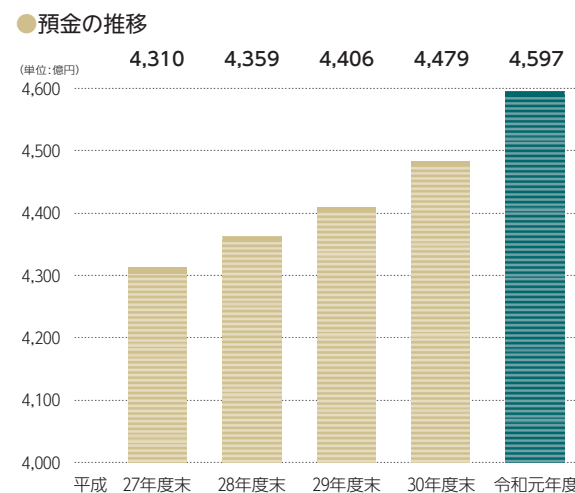
信用金庫は、地域の皆様方からお預かりした資金を地域で必要としておられる方々や地元中小企業にご融資することを通して、皆様の生活向上や事業の発展、地域経済の活性化のお手伝いをすることを使命とする、地域で生まれた地域のための金融機関です。



お客様のご預金について

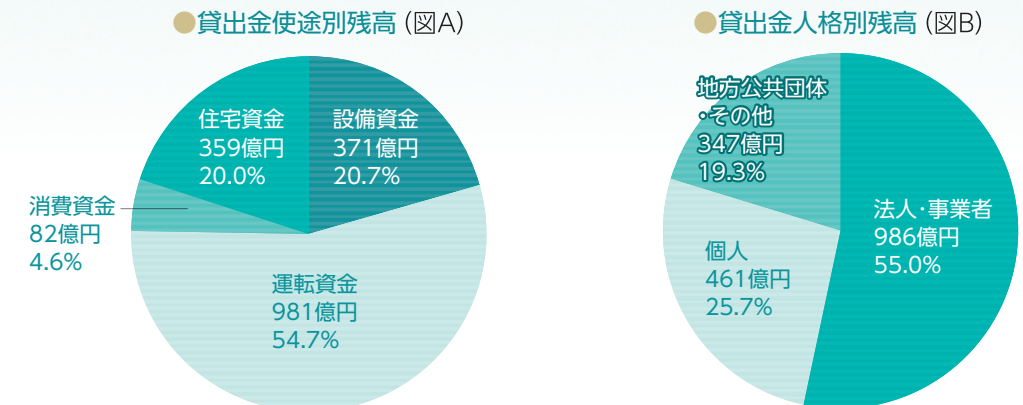
当金庫の令和元年度末の預金積金残高は4,597億円です。お客様からお預かりした大切な預金は、皆さまから信頼をいただいている証であり、当金庫ではお客様の大切な財産を安全・確実に運用しております。

また、お客様の資産づくりをお手伝いさせていただくため、目的や期間に応じて各種預金を取り揃えています。



お客様へのご融資について

令和元年度末における当金庫の貸出残高は、1,794億円で、使途別残高は図Aのとおりです。そして、貸出金の人格別残高と構成比は、図Bに示しています。また、預金積金に対する貸出金の割合（貸貸率：末残）は39.03%となっています。



融資を通じて地域金融機関の責務を全うします

当金庫存立の意義は、「金融効率を高め、良質で安定した資金を豊富に供給し、地域社会繁栄への貢献と奉仕にある」と認識し日々努力しております。また、貸出資産の健全性を確保するため、特定の業種や地域に偏ることなくバランスのとれた融資を心掛けております。

融資を通じて

- ① 地域のお客様の生活を豊かにする
- ② 中小企業の健全な育成を支援する
- ③ 地域の開発発展に貢献する

令和元年度決算について

当金庫の損益状況は、資金の効率的な運用、経営全般の合理化に努めるとともに、資産の健全性確保のために諸償却並びに諸引当金の繰入れを行った結果、前期比1億85百万円減少して9億17百万円の利益計上となりました。なお、本来業務から得られる業務純益は、前期比2億39百万円減少して10億17百万円となりましたが、一時的な変動要因を除いたコア業務純益は前期比4百万円増加して5億71百万円となりました。

今後も安定的な収益確保により経営基盤の強化を目指してまいります。

* 業務純益とは、金融機関の本来業務である貸出金や預金、投資信託・個人年金保険の窓口販売などの業務から得られる利益です。
* コア業務純益とは、業務純益から一時的な変動要因である債券関係損益と一般貸倒引当金繰入額を除いたものです。

自己資本比率について

自己資本比率は、金融機関の経営の健全性を示す重要な指標の一つとされ、当金庫では、お客様に安心して取引頂けるよう、自己資本の充実に努めております。

令和元年度の自己資本比率は23.92%で、引続き高水準を維持しております。この数値は早期正措置で義務付けられている自己資本比率4%（国内基準）を大幅に上回っています。また、信用金庫業界においても高位の比率を確保し、当金庫の健全性を示すものであります。

自己資本比率の推移と基準の比較

